

はじめに

山形県衛生研究所における平成 30 年度の研究成果及び業務実績等について、所報第 52 号としてとりまとめました。

地方衛生研究所は、地域における公衆衛生の科学的・技術的拠点として、疾病予防および健康増進等に係る試験検査や調査研究、公衆衛生情報の収集解析、地域保健関係者の研修指導を主な業務としています。

平成 30 年度の大きな話題としては、夏からの風疹の全国的な流行がありました。私たちも風疹検査への対応が増え、県内では 5 年ぶりに風疹の患者発生が確認されました。全国レベルでは、5 年前の大流行以来の先天性風疹症候群が見つかりました。こうしたことを受け、国が 30～50 代男性への予防接種無料化へ動いたことは報道等にあるとおりです。大きな話題にはなりませんでしたが、韓国でクウェート帰りの実業家がマーズ（MERS）コロナウイルスによる中東呼吸器症候群と診断されたことにはぞっとしました。2015 年当時韓国で患者が多発し、韓国帰りの発熱者について、私たちも MERS コロナウイルスの検査を実施したことがあったからです（もちろんウイルスは検出されませんでした）。

植物性自然毒関連では、7 月にヨウシュヤマゴボウ、9 月にテングタケ、11 月にツキヨタケによる食中毒が発生しました。

私たちは、こうした健康被害事例に際し、迅速・正確な検査結果を出し、かつ被害予防に向け、感染症の疫学研究、自然毒検査法や分析法の開発を中心テーマとして調査研究に取り組んでいます。第 17 回山形県科学技術奨励賞授与式・研究発表会（平成 31 年 2 月 27 日開催）において、当所の“コロナウイルスの疫学研究—迅速定量遺伝子検出系及びウイルス分離法の確立—”と“誤食が多い有毒トリカブトに特異的な検出法の確立”の 2 課題が、山形県試験研究機関優秀研究課題に選ばれ、大変励みになったところです。

本号を通じて当研究所の業務内容および研究成果をご高覧のうえ、ご批判やご意見等をお寄せいただければ幸いです。

山形県衛生研究所

所長 水田 克巳